

航空機・部品産業に期待高まる

日本の生産額の5割が中部に集中



「1日でも1秒でも早く顧客に届けたい」。MRJを開発する三菱航空機(名古屋港区)の川井昭陽社長はこう強調する。9月7日、親会社の三菱重工飛鳥工場(愛知県飛鳥町)で製造しているMRJの初号機を公開した。機体は機首や中胴などの各構造物ごとに分けて製造中。年末から2014年初めにかけて最終組み立てラインのある小牧南工場(愛知県豊山町)で結合する。

実は同社がMRJを公開するまでには、現場ですさまじい努力が重ねられていた。「9月までにMRJを機体の形にせよ」。6月下旬、三菱重工の工場では幹部からこんな号令が下った。夏の陣々と題する幹部名の文書も現場に配布され、主翼や胴体など個々に製造する初号機の構造物を9月までに完成させるよう指示していた。同時に日本で開催される国際会議に関連して、各国の要人がMRJを視察することになったためだ。

サプライヤー育成へ

産学官で競争力底上げ

一方、中部の航空機産業全体をみれば、民間機

の増産など明るい話題も多い。

日本企業が機体の35%を生産するボーイングの新型中型機「787」。

1月にはバッテリーラブルによって運航停止に追い込まれたものの、受注残を多く抱えており生産面への影響はほぼなかった。ボーイングは、13

年末に月産10機(現在は7機程度)という増産目標の達成に向け、サプライヤー各社に対応を要請。日本企業もそれに応じようと躍起になっている。

三菱重工や川崎重工業、富士重工は、機体生産量の増加と価格低減要求に対応するため、航空機部品の調達・生産体制をそれぞれ再編する。各工程で別々の企業に

787の部材を米国に運ぶ専用輸送機「ドリームリフター」(中部国際空港で)。

3社の取り組みはこうした非効率の解消を狙ったものだ。手法は各社各様だが、航空機産業

の規模拡大に対応するためのサプライチェーン改革という点で共通する。

国や行政も、引き続き航空機産業を成長分野に位置付け、重点支援している。愛知・岐阜両県は11年に国際戦略総合特区「アジアNO.1航空宇宙産業クラスター」形成特区に選ばれ、今年6月には三重県も区域拡大を申請。

中部経済産業局が主催し、中部を中心とする産学官が参加する「航空宇宙産業フォーラム」では、サプライヤー育成支援の一環として14年2月にシンガポールで開催されるアジア最大規模の航空宇宙展に共同ブースを出展する。

中部全体の取り組みに加え、各県では独自の支援策も進んでいる。愛知県は13年度、航空宇宙関連産業の製造業が、指定する区域に新規立地する場合に不動産取得税を免除する制度を新設。7月には同制度の適用第1号として、放電精密加工研究所が小牧市に航空機エンジン部品の新工場を建設することが決まった。岐阜県などが出資する

MRJ 初号機公開

苦難乗り越え開発本格化

文書にはこのような記述もあった。「MRJは三菱重工が、日本が威信をかけたプロジェクト。これまでのところ苦戦が続いてきた。9月の機体公開に向け、作業は急ピッチで進められた。

確かにMRJは、日本全体の期待を集めるプロジェクトだ。半世紀ぶりの国産旅客機。経済産業省が02年に構想を打ち出した小型航空機をベースに開発され、開発費1500億円のうち3分の1は国が負担。初号機を受領するもANAホールディングスだ。MRJの製造には取りまとめ役の三菱重工のほかにも、中部地域を含めた中堅・中小企業がかかわる。自治

体による共同保有や政府専用機の構想などもあり、「日本の翼」として政財界からの注目度も高

い。しかし、開発は順調に行っていない。三菱航空機は8月下旬、MRJの納入延期を公表した。開発遅延は、これで3度目だ。従来、年内を目指していた試験機の初飛行は1年半遅れの15年4月6日に変更。16年3月までに開始予定だった量産機の納入は、1年超遅れの17年4月6日に延期した。

遅れの最大の要因は、「型式証明」と呼ぶ安全認証の取得方法の確立に手間取ったこと。航空機は製造が進むMRJと川井三菱航空機社長

営業飛行を始める前にメーカー側が機体の安全性を航空当局に証明し、承認してもらう必要がある。しかし川井社長は「型式証明を取得する手段そのものがメーカーのノウハウと明かすように、簡単に乗り越えられるものではない。

三菱航空機はこれまでに計325機の受注を獲得。08年のMRJ事業化決断から既に5年。当初に想定した以上の生みの苦しみを味わっている。

今後、反転攻勢のきつかけとなるのは初飛行のタイミング。「実機があれば営業をしやすい」(川井社長)。今後は初飛行や各種試験を着実に進めることで、再び躍進のチャンスを探る。



川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

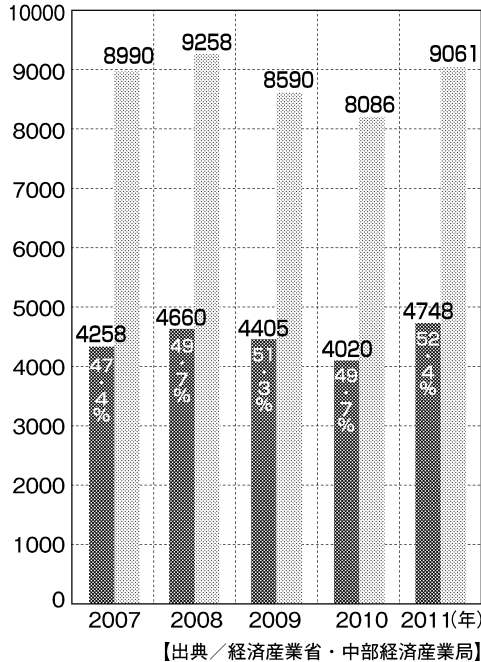
川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

川井三菱航空機社長

中部地区の航空機・部品の生産高

■中部地区(億円) ■全国(億円) ※%は中部シェア



MECT2013
2号館 & 3号館に出展

SUGINO

内燃機部品の「機械加工から精密洗浄まで」連係対応



例えば、シリンダヘッドなどの製造工程間ロスが節減できます。

#30 マシニングセンター
Self-Center™ H15-LX

- 類まれなる高剛性 … #30ながら#40クラスの剛性
- 必要十分な加工エリア … 4気筒シリンダヘッドに対応したロングストローク
- 省エネ & 省スペース … 消費電力・設置面積を低減したエコマシン
- 高速マシニング加工 … 高剛性ボディと軽量な移動体のコンビネーション

CNCタレット形 水中洗浄機
Jet Clean Center™ U-Jet

- 確実バリ除去 … CNC制御により深穴内もピンポイントでバリ取り
さらに6種類ノズルと最適バス制御で高効率・多用途対応
- 徹底切りくず除去 … ウォータージャケット部などの残留切りくずも隅なく除去
- 効果的キャビテーション … 最適制御された強力水中衝撃波動で威力洗浄

スギノマシン

SUGINO MECT2013 検索